

WATER PICK UP

水洗化工事にご協力を

市が下水道の整備工事をして、下水道に接続するための水洗化工事をしないと、使った水は川や海へそのまま流れ出てしまいます。下水道は処理区域内の全ての人を利用することで、最大限の力を発揮します。水洗化工事には費用が伴いますが、整備した下水道を有効活用できるよう、ご協力をお願いします。



▲下水道管の布設工事

浄化槽の設置にご協力を

下水道を整備するためには莫大な費用がかかります。そのため、荒尾市全域に下水道を整備することはできません。汚物や生活排水を家庭で処理できる浄化槽を設置することで、水をきれいな状態で川や海に流すことができます。浄化槽の設置には費用が伴いますが、費用の一部を補助する制度があります。条件などもありますので、詳しくはお問い合わせください。

環境保全課環境業務係
☎ 63-1370

汚水と一緒に雨水を流さないでね!

下水道マスコット
キャラクター「スイスイ」

下水道には私たちが快適な生活を送るための重要な役割があります。
【環境が改善し、街が清潔に】
 家庭や工場などから排出される汚水が側溝や水路に流れると、悪臭や蚊・ハエなどが発生する原因になります。下水道があると、汚水は直接、下水管に流れるので、街が清潔になります。
【トイレの水洗化で快適な生活に】
 下水道に接続すると、トイレが水洗化され、衛生的で快適な生活ができます。

下水道の役割

川や海の水質を保全
 直接、汚水が川や海に流れないように、下水管に汚水を集め、下水処理場で処理し、浄化します。これにより、川や海の水質を保ち、豊かな自然環境を守ることができます。

循環型都市づくり
 処理した水を再生水として使用したり、汚水を処理する工程で発生した汚泥を肥料として有効利用したりと、循環型都市づくりを進めることができます。

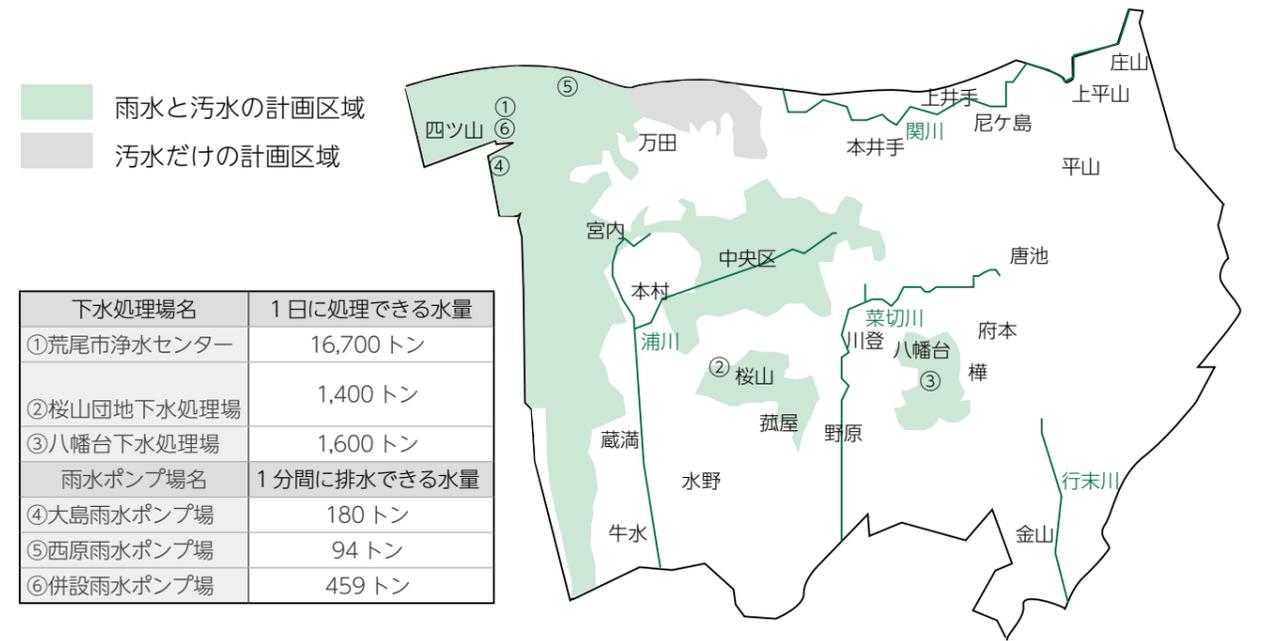
【浸水を防ぐ】
 雨水を川や海に排水するので、道路の冠水や建物の浸水を防ぎます。

下水道の整備状況

現在、市内面積の18%にあたる1050haで下水道整備が完了しています。
 市の下水道普及率（市の人口のうち下水道を使うことができる区域（処理区域）内の人口割合）は69.4%、水洗化率（処理区域内の人口のうち下水道に接続している人の割合）は80.0%です。
 これからも整備を進めていきますので、下水道事業へのご理解・ご協力をお願いします。

雨水と汚水の計画区域*マップ

※下水道事業認可を受けている区域



STEP 1 使った水はどうなるの?

雨水と汚水
 市の下水道事業は雨水処理と汚水処理を別々の管路と施設で処理する分流式で行っています。
 雨水処理では、大雨が降り、水路を流れる大量の雨水の排水が自然排水では間に合わなくなると、市内3箇所にある雨水ポンプ場に雨水を集め、機械の力で強制的に海や川へ排水します。雨水の処理をきちんと行わないと、地区によっては道路などに冠水被害が発生してしまいます。
 汚水処理では、家庭や工場などから出る汚水を道路の地下に埋設した下水管を通して、市内3箇所にある下水処理場へ運びます。下水処理場では、さまざまな水処理の工程を経て、環境基準に適合したきれいな水を海や川へ放流しています。水の生きものや私たちが健康に生きていくためにも、汚れた水を処理して、きれいな水を循環させることは不可欠です。

Interview



有明水利組合長
矢野俊明さん（海下）

下水道があるから
安心・安全な水を作物に与えることができる

65年間、浦川のある有明地区で農業をしています。今はサトイモなどを作っていますが、以前は米も作っていました。本来、浦川はきれいな川でしたが、昭和30年頃になると生活排水などで汚れてしまいました。浦川の水を田んぼに引いていたので、米を作れない時期もありました。また、基盤整理もされてなかったので、浦川の水が溢れて道路や田んぼが冠水することもありました。
 下水道が整備されてからは、安心・安全な水を作物に与えることができるようになり、とても助かっています。

◆写真は現在の浦川

雨水の流れ

- 大雨**
大雨が降ると、速やかに排水します。
- 水路**
水路を経て、雨水ポンプ場へ雨水を流します。
- 雨水ポンプ場**
ポンプで雨水を強制排水します。
- 有明海**
雨水を海に流すことで浸水を防ぎます。

汚水の流れ

- 家庭から排水**
台所や風呂などの生活排水は下水管へ流れます。
- マンホールポンプ**
ポンプ内部
自然流下で下水を流せない地区はポンプで圧送します。
- 下水処理場**
微生物に汚れを分解させて、汚水をきれいにします。
- 有明海**
きれいになった水を海に放流します。